

上海↔東京

子育てメール便 (1)

橋本雅子
津守多実

まさことたみは、養護学校での仕事を通じて知り合った子育て仲間。まさこの子ども愛佳は三歳女兒。たみの子どもクナは五歳男兒。親子で自然の中で遊ぶことが好きなのが共通点。

まさこの夫の申屠(スンドウ)は仕事や家族のことを考え、二人が知り合った大学時代から十数年におよぶ日本暮らしに区切りをつけ、出身地である中国・上海への帰国を決意。日本人コミニティと離れた、地元に密着した同居子育ての生活がスタート。

中国、日本の子育てにまつわるさまざまなもの、まさことたみのメール書簡で語る。

まさこ「んばんば。昨日、無事到着しました。山口の両親の、子どもと孫への愛を一心に感じながらの旅立ち。上海では、申屠と孫への愛でいっぱいです。

私ももちろん、とても親身にしでもらっています。

今朝は早起きした愛佳のペースに合わせて、敷地内の小公園で遊んだり、庭でテントウムシの幼虫にアブラムシの「はん」をあげたり、本を書くと言つて手紙のような文を書いていました。大切な人と別れては、ほかの好きな人に出会うということを短期間に体験している思いを表したかったのでしょうか。皆の名を言いながら

くさんの字（うしきもの）を書き込んでいました。もう少し落ち着いたら、愛佳発の連絡をしてみたいと思います。

午後には、デパートまで足をのばして子ども自転車を購入しました。自分の足でなじみの空間を広げていくことが大きな自信になるように思い、早い時点で購入しようと中屠と話し合っていました。

大好きなピンク色の、念願の自転車です。



私はこれから短時間、中国語の勉強です。まずはこちらの様子の報告まで。

たみ早速のメールありがとうございます。突然のように感じられた渡中ですが、長い間考えていたとのこと。引越し前には慌ただしい中にも愛佳ちゃんとクナのお別れの期間をつくることができ、親子とも密度の濃いかかわりを感じることができました。

すぐでも遊びに行きたい様子。子どもの記憶は薄れるかもしれません、二家族の親子一緒に見て河原で転げ回った体験は、身体の中に残り、先へつながっていくことでしょう。上海、そして、帰省したときの山口、こちらの生活エリア東京と住居のある川崎での子育て状況などを知らせ合っていきましょう。

遠く離れてしまうのは寂しいですが、私たちも世界へ気持ちを広げたいです。クナによると中国は、大好きな鳥の図鑑で知った、ユーラシア大陸だから近いそう。国境のあることなどお構いなしに

あこがれの自転車を手に入れたとのこと。わが家の近くの河原で、広い空間が怖かった愛佳ちゃん、クナの自転車にまたがって、最後には自信に満ちた笑顔で走り回っていましたよね。新しい自転車が、未知の世界に入していくと

きの支えとなりますように。

では！

(地域の)公園にて

たみ 敷地内の公園とは??

まさ」ええ、上海は集合住宅数

棟を高い柵や堀で囲った「小区」と呼ぶ区画で住宅地が構成されています。団地のようなものから、新しいものはニュータウンのようなものまで。小区内は管理会社や

住民が治安を守っています。小区によつてさまざまですが、共有空間に遊具や健康器具、芝生やあずまやなどがあり、住人の憩いの場になつています。

今のところ、田中に小区内で子

どもと出会ひません。夕方になると祖父母と一緒に暮らすまでの子どもがベビーカーで集まります。どの公園の遊具も、階段の高さや滑り台の長さなど、二歳児が一人で遊んでも危険の少ないつくりで、

今のは愛佳には物足りないようです。夕食後の散歩では、祖母と散歩に来た七歳の予と遭遇し、私と三人、小公園の芝生を走り回りました。

ただ、後から愛佳も、「明日は同じくらいの年の予と遊びたいね」と言つほど、私たちの生活リズムに交わる三歳～六歳の幼児との接点はまだなく、謎です。未就

園児が小区にいないのかも。

幼稚園は延長保育が七時、九時までとあり、保育園のような役割を果たしているようです。寮のある園もあり、幼児期から家族と離れた生活を送つてゐるわけで、申屠も驚いていました。

地域で幼児が集まれる児童館や子育て支援センター的なものは、ないのかかもしれません。夫婦で働くことが当然の価値観なので、乳児期は祖父母に頼んだり、富裕層はお手伝いさんを雇つたりしている様子です。

愛佳の友達と遊びたいといつ前向きな気持ちを、私の気後れで足を引つぱらないよつこじよつと心になつています。

に決め、同時に、できるだけ母の気持ちが「フレッシャー」になつてほしくないとも思つています。

地域の公園に行つたときの「」と。自転車で十分の公園の一角落には児童遊園があり、中央に複合遊具、その周囲に健康器具があります。幼児が遊ぶ合間に、同伴の大人が自転車にきなどができるレイアウトで、近隣の祖父母と孫が来ています。公園全体では、ダンスや民族楽器を練習するグループあり、拳法をする人あり、実際にきやかです。

その公園で、上海ではあまり見かけなかつた、結構やんちやな三歳前の男の子と出会つました。公

園に入った途端、一緒に来た祖父の声かけで駆け寄り、愛佳の手を握つきました。愛佳は驚いたもの、うれしい気持ちもあり、その子の友達が来るまで同じ遊具で一緒に廻りました。

でもね、子どもたちが足にきに

並んで乗つてゐる間、祖父が私の年齢や夫の勤務地などを尋ねながら、肩があたるくらい至近に寄つてきたのです。私は警戒し、愛佳を誘つて遊園外で花を摘んでいたのですが、それでもやつて来て、

ダンスに誘います（多分社交ダンス。青空の下で高齢の方たちがしてました）。私は慌てて「ダンスは嫌い」と断りました！

帰宅後昼食時に、片言の中国語でその様子を夫の両親にも話しましたが、「一緒に踊ればよかつたじゃない？」と陽気に父に応えられました。微妙なニュアンスが伝えられなかつたのか、文化の違いなのか？

正面言つて、この一件がなければ、もう少し積極的に一緒にられるようにしたんだけどなあ。珍しいケースとはいえ、祖父母が育児していると、こんなこともあるのかしらね…。

自然、生きものとのかかわり

まさこ 地域の公園の植栽は児童でしたら、上海市内で、原生林が

そのまま残っている場所の心あたりが申屠にはないようです。彼が

子どものころ好きだった街路樹は伐採され、木登りする子どもを見たのも今は昔、大きな樹木は整えられた花壇や芝生に囲まれ、子ども足を踏み入れるすき間があります。新たな緑化政策の上海です。

川に棲むゴイサギ、地域の公園に生息するトンボや貝、魚、雑草の一つひとつに、生活に近い自然のありさまを知りたい、遊びの中

に登場させることで、上海の自然を生活の中に織り込んでいきたいと思っています。田を凝らして、きっかけを探しています。日本の自然環境の豊かさ、生態系の複雑

さはやはり素晴らしい財産かもしないと、思います。

たみ 私の生活エリアである東

京は、「触っちゃいけない」「危ない」と、不自由な自然ばかりですが、それでも身近な所に触れる自然が上海よりは多いのかしら。このところ、 Baba の家で毛虫が発生しています。昨年隣家から苦情があつたので、早めに毛虫駆除をし、ジジは梅の実を早めに落とさなければならぬことを盛んに残念がりました。

中国からの大気汚染の影響で数日前に光化学スモッグ注意報が出たと新聞に大々的に載り、地球環境について考えさせられます。自然教育園で講義を受け、自然体系

が保たれることの難しさを実感するこのごろです。
まさこ 光化学スモッグの発生場所は上海もあてはまるようですが、注意報は聞かなかつたような…。私の弟は、環境問題を研究している関係もあり、中国の大気汚染が年々ひどくなっていることを研究データからも知るだけに、私たちを中国に送り出すことに複雑な思いをもっています。

上海の五月は東京のように穏やかな気候。建設による粉塵のある地域も、ずいぶん減ったように思え、車からの排ガスも、数年前に比べて改善された印象を夫婦でもつています。もっと、田に見え

て身体的に不快になるかと思えば、そうでもありません。愛佳が敏感肌、アレルギー体质なため、反応が懸念の一つ。症状が出るなら、本当に早くに現れてほしいです。

そういう最近、愛佳は虫が気になつてきました。ダンゴムシ、チョウ、モンシロチョウは日本にいるときと同じ虫。見慣れた、変わらない生き物、そして怖かったけれど、近づきたくもある世界。アリも触れなかつたのに、ついにダンゴムシをつまめるように！ 地域の公園からの帰り道、ダンゴムシを見つけて旧友に出会つたかのように話しかけました。ダン（と名づけました）をつまめ、喜び

びのあまり家に連れて帰りたくない、小さなボショットに入れて慎重に運びました。自宅で小さな缶に、「こはんとして土と水と落ち葉を入れ、ダンを入れてふたをしました。さらには死んだカナブンを見つけ、死んでいたら動かないから「さわれる」と部屋へ連れて帰り、イエイエ（祖父）、ナイナイ（祖母）が嫌がるのも気にせず「ハナブ」と名づけるほどの盛り上がり。

何どこの近所さんは、毎日二回十四近い外猫の「こはん」をあげています。小公園の竹林の一角に犬小屋のような高床式の小屋を据えつけ、外猫たちの「こはん」置き場にしているようです。人に慣れていない猫たちが、木に登る様子や、虫を捕まる様子を眺めることができます。日中の小公園には猫の

人間の友達がない分、虫や影や草花が、愛佳にはじつとう身近な存在になっています。自然教育園にまた行きたいともらしていました。

昨日は朝起き抜けにイエイエ